



CEO interview

(株)大黒屋

【概要】

代表者：石坂 鉄平

創 業：昭和 28 年

本 店：長崎県大村市水主町 2-623-1

TEL 0957-53-1168

東京支店：東京都港区海岸 1-2-3

汐留芝離宮ビルディング 21 階

TEL 03-5843-7629

石坂 鉄平氏が代表取締役社長に就任

平成6年1月の社長就任以来、多大な功績を挙げてきた石坂 和彦氏は、7月1日付で代表取締役会長に就任。新社長には長男の石坂 鉄平氏が就任した。(株)大黒屋は、老舗の商業手形割引の専門店として知られていたが、時代の変化に対応したここ数年の事業改革により、「でんさい割引・ABLの大黒屋」へと生まれ変わり、業界最大手企業にまで成長している。金融事業以外では、住みよい住空間を提供するためマンションの建設、起業・創業支援のためのレンタルオフィスのオープン、ベンチャー企業への出資など次々と新しいフロンティアにも挑戦。日々進化を続ける同社の今後の展望について、石坂 鉄平新社長に話を伺った。



■この度はご就任おめでとうございます。日本国内で商業手形割引専門の大手として知られてきた御社ですが、ここ数年で「でんさい割引・ABLの大黒屋」にブランド変更し、急成長されています。あらためて御社について教えてください。

石坂：(株)大黒屋は、昭和 28 年に祖父の石坂 軍次が質屋業として創業し、昭和 39 年に手形割引専門店へと業態変換しました。そして、平成 23 年からはインターネット取引の拡充により全国展開を果たし、平成 25 年には業界に先駆けて、紙の手形（約束手形）に代わる電子記録債権（でんさい）の資金化を行う「でんさい割引」を開始しました。平成 30 年 1 月には更なる市場開拓のため東京都港区に東京支店を開設し、平成 31 年には売掛債権や診療報酬債権そのものを早期資金化する ABL を開始し、日本全国の企業さまや医療関係者さまにご愛顧いただいております。また、最近では不動産賃貸業や起業創業支援事業、太陽光発電事業などファイナンス事業以外にも力をいれています。



代表取締役会長に就任した
石坂 和彦氏



代表取締役社長に就任した
石坂 鉄平氏

■御社は急速な時代の変化に対応し、さまざまな改革を行っておられます。最近の取り組みを教えてください。

石坂：業務効率化とお客さまへのサービス面向上のために行った3つの事例を紹介させていただきます。最初に、弊社独自の基幹システムを開発しました。これにより弊社のすべてのサービスや情報を一元で管理・利用することが可能となり、飛躍的に業務が効率化しました。次に、独自のオンライン面談システムを開発しました。来店せず、オンライン上で担当者の顔を見ながら直接お申し込みができるので、時間的な問題でご来店が難しいお客さまや距離的な問題でご来店が厳しいお客さまに最適なサービスです。そして、直近の改革としてはクラウドサインを利用した電子契約サービスを開始しました。電子契約は、紙と印鑑をクラウドに置き換えることで、申込書や契約書が電子化し、完全なる脱印鑑&非対面取引を実現。日本全国のお客さまに「すごいサービス」「便利!」と大変喜んでいただいております。

■今後の展望をお聞かせください。

石坂：諫早支店が大黒屋データセンターに生まれ変わります。創業時から長年にわたり構築してきたデータを24時間365日管理・運用することで、より質の高いサービスの提供を可能とします。また、DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進するための拠点としてデジタルセンター（仮称）を建設します。他に類を見ないオリジナリティーと将来を見据えたイノベーション、そして地域とお客さまをつなげる大黒柱となるような拠点にしたいと考えております。私は、小さい頃から創業者である祖父や父である現会長より「事業を通じて社会貢献」という姿勢を学んできました。キレイごとではなく、お客さまの幸せや地域の発展を第一に考えれば、会社は存続・継続・発展する。企業の長期的な業績は小手先のテクニックだけでは永くは続かず、経営者の人間性や生きざまの反映であると確信しています。これからも「企業の目的とは何か？」を社員と一緒に考えて続け、いつまでもお客さまの幸せ創りを第一に考える大黒屋であるよう努力してまいります。



建設予定のデジタルセンター（※写真はイメージ）



大黒屋データセンター

●インタビューを終えて●

(株)大黒屋は、お客さまが来店されると必ず全社員が立って元気よくごあいさつをされます。また、日本で唯一、昭和47年から10期連続で優良法人の表敬を賜っており、国税庁長官表彰や財務大臣表彰といった荣誉ある賞も受賞されています。石坂社長によれば、創業者の石坂 軍次氏は社会貢献に命を尽きた人であったと言います。その精神が経営陣や従業員の方々にしっかり継承され、今日までの発展があると感じました。今後ますますの発展を期待します。

(副 島)